

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

【第2部】皆さまからのご質問へのご回答と質疑応答

続きまして、皆さまに事前に頂きました質問に対してお手元の資料にありますように、10個のカテゴリーに分類させていただきました。そのカテゴリーごとに、クラブの方から質問の回答をさせていただき、その都度、質疑応答を行いたいと思います。ご質問の際には挙手をお願いいたします。ご質問いただける方については、私の方でご指名の方をさせていただきます。時間の都合もございますので、ご質問はおひとり様1点、2分以内とさせていただきます。

なお、本日の全体的な進行でございますが、まずこの後クラブ・フロント、トップチーム・育成、ASエルフェン狭山FCとの提携について、約45分程度を見込んでおります。そのほか3つのテーマがございますが、そちらに関しては約30分を考えております。そして最後15分には、本日全体を通じての質問をいただくお時間として考えております。最後19時にはこちらのサポーターズミーティング終了という流れで考えさせていただいておりますので、皆さまご協力のほどよろしくお願いいたします。

<2-1>クラブ・フロント・トップチームについて

まず初めに、クラブ・フロント、そしてその次のトップチームの部分ですが、今しがた、社長の鈴木および、GMの岡本の方よりお話をさせていただきましたので、皆さまからの質問を受ける時間とさせていただきます。質問のある方挙手をお願いいたします。

それでは一番最初に挙げられました、右後方の方どうぞ。

質問者 1-1:

どうもお疲れさまです。今年ベルデニック監督が継続となって、小倉コーチをはじめ、トップチームのコーチ陣かなり充実されて、育成というコンセプトが見えているなと思うんですが、その中でゴールキーパーについてなんですけれども、今年、ユースから川田君が上がって4人になりました。第三ゴールキーパーの清水選手も含めて、非常に出場機会の少ないポジション、清水選手の成長も含めて川田君の育成プラン、例えば下部のところにレンタルで貸すとか、海外武者修行に行かせるとか、もしくはちょっと失礼な言い方ですけど、白井さん以上のゴールキーパーコーチを今後、招聘して自前で育成するのか、もちろんユースにもまだ加治屋君といった将来を期待されているゴールキーパーもいますので、そういったところのゴールキーパーの育成強化についてのプランが何かあるのでしたら、お話をお聞かせいただけないでしょうか。

岡本:

はい。貴重なご意見ありがとうございます。ゴールキーパーの体制についてですが、今年は4名体制にいたしました。川田選手については、やはりまだ即戦力というよりは今後の伸びしろという部分を考えて獲得させていただきました。その中で育成プランというところでは、技術的な部分でまだまだ足りない部分があると思っています。ただ、ポテンシャル部分については非常に高いというところで、やはり白井コーチにしっかりまず技術的な部分を向上させていってもらおうということが一番じゃないかと考えております。ですから、私も以前キーパーコーチをやらせていただいていたのですが、試合経験というよりもしっかりと技術というところを一年間かけて磨いていくのが大事だと思っています。

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

その中で次のステップとして出場機会ですとか、そういうところを含めて川田選手がやはり将来的にクラブの中心、もしくは日本代表になれるような選手になるようなことをやっていければと思っております。そういった部分で今回のところではしっかり技術という部分をしっかり磨いて川田選手を成長させていくと考えております。

司会：

次にいらっしゃいますでしょうか。最前列の方。

質問 1-2:

すみません、ちょっと質問ですけれども、去年のサポーターズミーティングにおきまして、鈴木監督3年目ということで、たくさんの選手、有力選手を補強して3年目を迎えて、それで補強した選手も素晴らしい選手ばかりでマイナスっていう感じはしなかったんですけども、やはり前半戦のバランスを崩したというか、失点というか、失点が多かったというか、その点について今年はどうされますか。特にボランチの面ではカルリーニョス選手を補強して、その前に取った上田康太選手がいながらも、最後には青木選手、金澤選手という形で生え抜きの、生え抜きというか、とてもなじみ深い選手になってしまいましたけれども、今年はその点はどうされるかとちょっとお聞きしたいんですけども。

岡本：

昨年の鈴木監督というところでお話させていただくと、やはり鈴木監督の良さというのは、選手をあまり拘束しないで選手のポテンシャルをチームに反映させるというやり方でした。その中でやはり新しい選手が多く入ってきてしまったことによって、やはりそのバランス、選手同士のコミュニケーションも含めて、そのチームのバランスを取ることが非常に難しい状況になって、このままで行くと勝点50以上という目標が達成できるのは難しいと考えて交代をすることにしました。ベルデニック監督にした理由の一つは、そういった中で時間がない中で、いかにチームとして機能させるかと考えた場合、どちらかという、ヨーロッパの監督というのは戦術の中で選手をどう生かすかというような形のサッカーをやります。そういった中でベルデニック監督を招聘して、チームの中である程度の決め事ですか、やり方というのを徹底して、その中での強化という部分を考えて、ベルデニック監督になりました。

今シーズンについてはベルデニック監督に続投していただくという中でやはりそのチーム戦術の中で個人をどう生かしていくか。それを α 、どう高めていくかというところを考えると、チームを作っていたらと思っておりますので、そういった中で今後、問題が起きた場合については、それはどう対処するのが一番いいかというところを、その時の状況を踏まえて考えていきたいと思っております。

司会：

それでは次の方いらっしゃいますでしょうか。そちらの方。

質問者 1-3:

質問させていただきます。私、アルディージャサポーターズの会というところに所属しておりますウチコシと申します。略称、アルサポ会という会です。まだ二十数名ぐらいの小さな団体と申しますか、こよなくアルディージャを愛して応援しているつもりの団体でございます。いつもお世話さまになります。

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

先ほど、社長のご挨拶の中でちょっと引っ掛かる部分がございます、おそらく私どもみたいな会と
いいですか、集まり、仲間ってというのは、アルディージャの中に非常に多いと思います。私どもだけ
じゃないと思います。その中の特定の、先ほど、社長のご発言の中には、サポーター、ファンの皆さんの
代表の方の、というご発言があったかと思えます。それは、私ども当然呼ばれておりませんし、どこか
の方と、団体とお話しになったと思うんですけども、それはクラブとして認定されておられるとい
うことでしょうか。少し気になりましたので、この件について、今日は公式の場でございます。その公式
の場に社長が第一声で、去年の4月、去年の12月、もう非常に私どもも、皆さん、ここにいらっしやる
方も当然ですけど、胃の痛くなる思いをして、「ああしたらいいんじゃないか」「こうしたらいいんじ
ゃないか」とか、協力できる場所はしようっていう気持ちで盛り上げてきた皆さんばかりだと思
うんですけども、その中の特定の方とおっしゃいました。ファン・サポーターの代表の方とおっしゃ
いました。これはちょっとご発言に引っ掛かる場所がございますので、今後のファン・サポーター対策
も含めて、簡単にお考えをお聞かせ願いたいと思います。よろしく願いいたします。

鈴木：

はい、誠に申し訳ございません。代表の方ということでは、そういう意味で言うと（代表の方では）
ございません。私の考え方、ファン・サポーターの方は個人であろうが、団体であろうが、全く私は同
じだと思っています、常日ごろ、特にメインスタンド、バックスタンド、ゴール裏の方でも、これはフ
ァン・サポーターであって、全員同じということ考えています。そういう意味で先ほど言った、代表
の方ということについては取り消させていただきます。大宮アルディージャを応援してくれているサポ
ーターの方の一部の人とそういう話をしたということで、理解していただければいいのではないかと
思います。代表の方という意味合いで言いますと、ここにいたサポーターの代表ということになります。
もう少し言いますと、バックスタンド、メインスタンド、ゴール裏も含めて全員同じサポーターです
から、それを代表して言ったんだと捉えかねませんが、そういう意味合いではございません。いわゆる
アルディージャを皆さまと同じように強く愛して応援してくれている一部の方という意味です。私が、
オープンにしたというのは、そういう約束を4月の時点でもうしてしまし、12月の時点でもオー
プンにしてくださいというお話も約束しましたので、この場でオープンにさせていただいたという
ことでご理解いただければと思います。サポーターの代表ということについては、取り消させていただきます。
申し訳ございませんでした。

司会：

次の方。中央の白いシャツの方。

質問者 1-4：

すみません、どうも社長、あけましておめでとうございます。浅間町のナカムラと申します。昨年は
どうもいろいろお世話になりましたありがとうございます。今日ちょっとこのレポートを私作りました
ので、これ社長、ゼネラルマネージャー、強化部長、その他、見てもらいたいと思ひまして、今
から渡したいと思ひますので、ちょっとお願いできますでしょうか。

じゃあ質問させていただきます。よろしいでしょうか。

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

大宮アルディージャは J1 リーグに昇格してから一度も上位に立ったことはありません、8 年連続で J1 残留に転じる状況で、成績が悪いとシーズン途中であっても監督をこころと変えております。昨年も 5 月 26 日のジュビロ磐田戦の敗戦後に鈴木淳監督を解任させて、ベルデニック氏を監督にしましたけれども、私は疑問に思うんですけれども、監督を交代するだけでチームが強くなるとは思ってはおりませんでしょうか。以上です。

鈴木：

貴重なレポートありがとうございます。このレポートについては詳細、後ほど読ませていただきますが、今、ナカムラさまがおっしゃった監督を変えることだけで、結果を変える、結果を良くするために監督を変えることだけで乗り切っているのではないかということの質問に対してお答えしますが、そういうことは全く考えていません。ただ、言えるのは、クラブとして毎年監督と、単年契約か複数年契かは別にして、毎年シーズン初めに、契約するに当たって、目標と戦い方を、ある意味約束と言いますか、これで大丈夫かと当然補強についても監督の要望を聞いて補強をしますし、それに伴ってコーチ陣も、例えば、変えるだとか色々なことを話し合った上で目標を達成できるかどうかを約束します。ただ、それで最終的に結果が出るか、出ないかというものについては、どこかで去年もそうだったんですが、判断せざるを得ない状況になったのは確かです。ですから、そういう状況が去年はあったと。もう少し言うと、その 2 年前の鈴木淳さんが来た時に、張監督から変わる時もそういう状況になったということなんです。私たちチーム力というか、成績を上げるために、監督を変えることで成績を上げるとは、実は全く考えていません。ただ、当初予定したものが達成できるかどうか。会社で言うと、私も会社の社長をやっていますけど、途中までの中間決算を見た場合に、中間決算が思った以上に駄目だと。これだと年度通して駄目だと、目標達成できないといった時には修正計画を、事業計画を組むというのと同じだと考えていただきたいと思うんです。

ですからもう少し言うと、監督を変えるのは断腸の思いです。何故かと言うと、シーズン当初に約束したのですから。約束したにもかかわらず監督を変えざるを得ないと。もう少し言うと、先ほど言ったとおり、そうなる様になったところの責任というのはやはり私にも、社長の私にもあるのだろうなと思っています。後ほどまた、このレポートについては読ませていただきます。

司会：

それでは次の方。では、手前の眼鏡をかけていらっしゃる方。

質問者 1-5：

質問させていただきます。今年の選手の獲得強化の方法、方針についてなんですけれども、皆さんご存じの通り、東選手が FC 東京に移籍して、金久保選手が福岡にレンタルで移るという形になりまして、戦術的には 4-4-2 の形で戦っていくのかなというのは思っているんですけれども、俗に言うトップ下と呼ばれる両選手が最もやっぱり生きる場所、トップ下の選手についての獲得を、今年の強化の核としても、考えていたのでしょうかということをお聞きしたくて質問します。

岡本：

はい、貴重なご意見ありがとうございます。まず東選手のところですが、去年の夏に東選手自身が海外に移籍する可能性がありました。

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

それを見据えて、外国籍枠（の選手）でキムヨングオン選手が移籍したので、それ（枠）をストライカーのところで使わせていただきました。そういった中で、やはりストライカーというところで、今年まだちょっとノヴァコヴィッチ選手がまだ契約の更新は出来ていない状況（2013. 1. 26 期限付き移籍を延長）ですが、ノヴァコヴィッチ選手はトップ下も出来ますし、そういった部分で、清水慎太郎選手、長谷川選手、そういった中で経験も積んできて、やはりレギュラーに近い選手たちが増えてきています。そういった選手を活用できればと思っております。ただ、トップ下の選手というところで何人かリサーチいたしました。そういった中でミッドフィールダーというところでは、チャンスがあれば獲得するつもりで交渉はしていたんですが、なかなか上手くいかなかったというのは現状ではあります。

司会：

それでは次の方。では、一番後方の方、どうぞ。

質問者 1-6:

質問させていただきます。大宮だけじゃないんですけど、Jクラブ全体的にちょっとあるんですけど、アジア枠についてなんですけど、Jリーグのアジア枠の使い方っていうのがだいたい韓国人プレイヤーが多いと思うんです。一部名古屋グランパスがオーストラリアのケネディ選手を使っていると思うんですけど、韓国人選手は安いとか、生活環境が近いということもあると思うんですけど、中東の選手とか、さらにオーストラリアの選手とかでいっぱい良い選手がいると思うんですけど、何故、このへんを狙わないというか、中東の選手だったら、レバノンとかシリアとかだったら安く手に入ると思うんですけど、その辺でどうしてなんでしょう。

古矢：

オーストラリアの選手の情報も多々たくさん入ってきております。実際ビデオを見たりとかしてスカウティングの方は進めております。ただし中東といいますか、そちらの方の情報というのはあまり入ってきておりません。ただ、去年の暮れにイスラエルの方の選手の話も多少出たことはあるんですが、実際具体的に宗教の関係等がありまして、食事の面とか、肉など食べられないものがあったりということ、一人入れるだけでクラブに相当な負担が掛かるとか、いろいろその辺も考えるとなかなか難しいのかなという考えでなかなか手は出せません。韓国は近いということもあるし、言葉も「監督」という言葉一つ取っても通じるとか比較的入りやすいというのがあるので、Jリーグ全体でも韓国の選手が多くなっているのではないかと思います。以上でよろしいでしょうか。

司会：

次の方いらっしゃいますでしょうか。では、真ん中の方。

質問者 1-7:

これは質問というよりは意見なんですけれども、この質問用紙の3枚目、表紙を含めた3枚目の裏面の一番下、39番のその他なんですけど、ナビスコカップはどの程度意識されていますか。先ほど、スライドの中でチャンスがあれば狙うというふうなことになっていましたよね。私はチャンスがあれば狙うんじゃないくて、タイトル取ることを前提に戦っていただきたいんですよ。

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

岡本：

貴重なご意見ありがとうございます。タイトルを取らないということは全く考えておりません。チームとして勝つことをまず目標としてやっております。ですから一試合一試合をまず勝利して、その次に優勝というものが出てくるとお思いますので、それについては一試合一試合、まず勝利を目指す。その上に優勝というものがあると思っておりますので、決して、諦めていることではありません。

質問者 1-7:

優勝するために現実的に予選リーグの突破、これをしていただきたいんです。これは、単にこれだけの話じゃなくて、リーグ戦にもかかってくると思うんです。というのは、予選リーグを戦い抜けないチームというのは、リーグ戦の前半の成績も悪いと思うんです。だからそういう面も含めて、両方とも、リーグ戦もカップ戦の予選リーグも両方とも意識した上で前半戦を戦い抜いていただきたいんです。去年の例を挙げさせていただくと、どうもそういうところで戦う意識が足りないという感じ。後半戦は頑張りましたが、前半については厳しい意見になりますけど、これお金払って見る価値があるのかと、そのぐらいの気持ちで見えていました。ですので、これからは、もう本当に突破、タイトルを狙うと、そういう意識をお願いします。質問なんですけれども、先ほどのチャンスがあれば伺うとかおっしゃっていましたが、これについても一回ちょっとお答えしていただきたいと思っております。

岡本：

本当に貴重なご意見ありがとうございます。昨シーズンについては本当にナビスコカップで不本意な成績になったと思っております。やはりその部分を含めて監督だけの問題ではありませんが、監督を交代して、より勝ちを目指すということも含めてクラブとしては考えております。今シーズンについては、先ほどお話ししたとおり、やはり一試合、一試合無駄な試合はないと思っております。ですからカップ戦でも、リーグ戦でも一試合、一試合、勝利のために全力を尽くすと考えております。そして、タイトルを取れるチャンスがあれば絶対狙うと思っておりますので、それも含めてやはり一試合、一試合、勝利を目指すということで考えております。

質問者 1-7:

お願いします、ありがとうございました。

司会者：

それでは、前方の方。

質問者 1-8:

代表の話の時に、先ほどウチコシさんの話と一緒に。代表のやはり話し方で責任の取り方っていうふうにおっしゃられたので、シーズンの途中で結果が悪かったらどう責任取るんだというような突き上げがあったにしても、それをじゃあ、シーズンの途中で、じゃあ私駄目だったらって、皆さんクラブの人たちが、こう責任を取ります、こう責任を取りますって、それを公表して宣言する。そんな話は絶対聞きたくないです。元々われわれどう責任を取るんだというような権利を持っているわけではもちろんありませんし、会社の間でもありませんから。そういう様な「じゃあ、私の責任の取り方はこうだ」「自分の責任はこうだ」というお話はもちろんいいんですが、「こうやって責任を取ります」という先のお話を、そういう話し方は絶対控えてもらいたいと思っております。

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

気持ちがあまり良くないです。だから「自分の責任はこうだ、こうだ、こうだ」と「それを果たすためにこういう目標を立てこうやっているんだ」というような発言にぜひ徹してください。よろしくお願いいたします。

鈴木：

おっしゃる意味よく分かります。今後はそういう様に努めていきたいと思えます。ただ、少しお話しさせていただきますと、先ほどのサポーターの一部の方とお話をした時に、責任取るかどうかは自分で考えるという話は、4月にさせていただいたのですが、その時点で自分がやらなくてはならない責任というのは、いかにチームを勝つために良い方向に持っていか、それだったのですが、ただ、結果としてやはり勝点50以上にならなかったのも、やはり私は何をやらなければならないかということで考えた時に、先ほど言ったとおり、前向きにハードだけじゃなくてソフトの部分もやっぱり将来に向けての基盤づくりをすることが今の責任なんだろうという思いがあったので、ちょうど12月にサポーターの方とも約束をさせていただいたこともあったので、今ここにオープンにさせていただいた訳です。もう少し言いますと、サポーターの方と約束したからオープンにしたという言い方だと、すごく後ろ向きなんですけど、うちのチームを改善して強くしていくためには、多分、去年の成績うんぬんにかかわらず、私は同じようにここでしゃべっていたのではないかと思います。それは何かと言うと、やっぱり基盤をしっかりと一度整えてやるということで、将来何年か後に繋がるという様に、私は思っていましたので、やはり、だからすごく今日、責任うんぬんということがあって話していますが、そういうことがなくても、話し合いがなくても、私は皆さんにそういう話をしたのではないかと思います。いずれにしましても、おっしゃられているその耳障りといいますか、そういうことについては、よく分かりますので、今後経営者の立場でしっかり考えた発言をするようにしたいと思えます。本当にご迷惑かけて申し訳ございません。

司会：

ありがとうございました、時間の関係もありまして、このカテゴリ最後の質問とさせていただきます。なお、全体の最後でもご質問をいただく時間を設けようと思っておりますのでよろしくお願いいたします。では、前の方。

質問者 1-9：

さっきから責任、責任ってずっとその言葉を並べているんですけど、監督さんを何人も、何人も解任して、自分たちは責任取ろうっていうことは思わないんですか。

鈴木：

その件に関して、ですから、将来に向けて今先ほどお話ししたことを達成すると言いますか、基盤を整えるということが、私が今任された責任、責任の取り方というのはそういうことだという意味で言っています。やはりポジティブで、多分責任というのは、例えば「辞めてはどうですか」という様なことをおっしゃっているのかもしれませんが、やはり経営の継続性ということで、やっぱり私は考えるべきじゃないかなと思ってまして、これから大事なのは何度も言いますが、私の責任を取ることと考えると、やはりしっかりした基盤を築くというのが私の責任であり、私が皆さんと一緒に基盤の築く

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

方向性を私は示しますので、皆さんも一緒にその基盤を築く方向で協力してもらいたいという意味を込めてお話をしています。

質問者 1-9:

それはどこのクラブのサポーターも同じ願いだと思うんですね。

鈴木:

はい、ありがとうございます。

質問者 1-9:

それを今さら、鈴木さんから言ってもらって、今日集まってくれた人たちに長々と話す必要はないと思います。

鈴木:

誠に申し訳ございません。確かにその通りかもしれません。ですから、先ほど言いましたとおり、今後の発言等については TPO といいですか、場所とか時間も考えた上で、しっかり経営者として、皆さんの耳障りにならないようにしっかりしていきたいと思います。本当に申し訳ございません。

司会:

ありがとうございました。続きまして、次のカテゴリーに移らせていただきたいと思います。次は育成の部分に関してです。これについては岡本 GM の方から、ご説明をさせていただければと思います。